

## 多様な資源を生かしたい！

## 広葉樹の用材利用を推進

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所

技術主幹 佐々木智恵

## はじめに

私は北部地方振興事務所勤務していた令和2年から4年まで、奥羽山脈に位置する加美町の町有林において、豊富で多様な広葉樹資源を有効に活用するため、チップ材利用に加え、用材活用を試みました。この取組は、町の歳入を増やすこと、高齢化した広葉樹林の確実な更新を図り、森林病虫害（ナラ枯れ）の予防対策を進めることも目的としています。本稿では、それらの活動を紹介いたします。

## 町への技術的支援

町に対しては、家具やフローリングなど広葉樹資源の活用方法に関する情報を提供しながら、森林経営計画に基づく変更補助事業を活用した更新伐の実施など森林施業の実施に向けた



更新伐施業後の森林

技術的な支援を行いました。また、同様の取組をしている他の地域を視察したり、文献調査により得た施業方法等の情報を関係者間で共有しました。



施業状況視察

## 関係者間のコーディネートと技術的支援

森林所有者である町に加え、町から施業を委託された素材生産業者に対して指導を行い、早期で確実な更新に向けた森林整備の取組を技術的な面から



用材の確認

支援しました。

また、広葉樹の採材研修会を実施し、確実な取引に結びつくよう用材利用を想定した材長や曲がりの許容範囲などを確認することで、最終的な需要先であるフローリング等の加工業者のニーズに合わせた採材を指導し、サブライチエーンの構築を支援しました。



採材研修会

## 実績の分析と 報告・意見交換会

2年間の取組で、用材として利用できた材の樹種、材積、径級別割合、販売額等の実績を分析しました。用材利用率はどちらも約12%とあまり高くなかったものの、令和2年からの2年間で、ナラ、サクラ、クリ、イタヤカエデ、ホオノキ等奥羽山脈の特徴である多様な樹種を用材として出荷することができました。径級で見ると、出荷材は径18cmから50cmまでの原木でした。

地域における広葉樹の用材利用を推進するため、この結果を活用し、林業事業者や製材業者を対象に報告会と意見交換会を開催しました。今後の課題として、①更新伐施業後の天然更新の



報告・意見交換会

確認、②事業性確保のための継続的な広葉樹の供給、③森林情報管理システムや航空写真等による利用可能な資源の把握があげられました。

## 広葉樹材利用PR活動

これらの取組を広く町民に伝えるため、みやぎ森林・林業未来創造カレッジの協力を得て、テーブルとイスのセットを作成し、普及用パネルとともに多くの町民が利用する中新田公民館へ設置しました。テーブルとイスの脚には丈夫なクリ、イスの背もたれや座面は複数の広葉樹材を組み合わせて作られており、町民の反応も良好で色や風合いなどそれぞれの樹種が醸し出す魅力を町民に伝えることができました。



テーブル・イスセット

## さいごに

この取組に携わることで、広葉樹利用に関わる様々な分野において、熱意を持った前向きな人材や、伐採・加工等の専門技術を持つ方々に出会うことができました。この取組の主な内容は、これらのマッチングと調整、体制づくりとなったように感じています。

令和5年度からは北上山地を管轄する東部地方振興事務所登米地域事務所勤務しており、引き続き、広葉樹の用材利用に関わりたいと考えています。この地域では、FSC認証を取得しており、特にFSC認証広葉樹材に対する引き合いが強く、持続的な資源管理が課題となっています。広葉樹の用材利用は、生物多様性もたらす経済的な価値であり、継続的な利用とともに資源の持続的な管理を実現していきたいと思っています。